

2020 Tokyo Thanks Match 3 回戦

～VS 都日野 ゲームレポート～

「とにかく苦しい試合」、本日の試合を振り返っての一言です。そして、「3 年生の底力」を見た一日でした。9 月 21 日（月）、都立日野高校の HOME に乗り込んでの対戦となりました。昨日の錦城高校での課題を強く意識し、高いモチベーションで臨んだ一戦。1 Q、相手のエースに立て続けに得点を許し、我慢の展開となります。しかし、昨日の課題であったトランジションディフェンス・ボックスアウトを徹底し、22-22 の同点で終えます。スコアは同点ですが、決して悪い流れではありませんでした。2 Qに入り、相手の得点源を押さえるべく、ディフェンスに重きを置き、練習で培ったチームディフェンスが機能し始めます。オフェンスでは練習でやってきたことがそのまま表現され、大崎のリズムで試合が進みます。特に #5 のディフェンスリバウンド、スティールでの貢献度は大きく、チームに安定感をもたらしました。前半を 46-36 で折り返します。3 Qの入り方もよく、トランジションディフェンス、ボックスアウトとディフェンスから良い流れを作り、最大で 22 点差をつける展開となります。しかし、後半にミスが続き 64-50 と少し戻されて 3 Qを終えます。4 Qの入り方も決して悪くなく、強度の高いディフェンスで相手のミスを誘発するなど開始 2 分で 6-0 のランで 20 点差をつけ 70-50 とします。しかし、本当の苦しさはここからでした。何とここから 5 分間も得点が入らず一気に 21 得点を決められ残り 3 分で 70-71 と逆転を許してしまいます。ミスからの相手 #7 の連続 3 P や速攻が続いたのが原因です。このまま試合は終盤へ、残り 6.6 秒で 73-75 と日野にリードを許し、大崎ボール。最後のシュートを託したのは、3 年生の

5でした。相手に追い詰められ、残り1秒で「ボード裏」から放ったミドルシュートはリングを転々としながら、イン。見事な執念のブザービーターでした。オーバータイムに持ち込んだ、大崎は、その後5分間も点数が取れなかったのが嘘のように16-2でオーバータイムを駆け抜け、最終スコアを91-77で終わりました。

3年生が二人のみ残る本校は、ある意味若いチームです。高校生のスポーツは「精神面のタフさ」「経験」も試合を作るうえで重要な要素になると、顧問ともども改めて痛感する一戦となりました。と同時に、今大会に懸けて受験と同時進行で毎日練習に励んだ、# 5と# 10の二人の3年生の「思いの強さ」を感じました。次週は、ベスト32をかけて都千歳丘との試合です。そして、ダブルヘッダーでベスト16をかけて戦います。応援よろしくお願いいたします。

3回戦 VS 都日野

1Q 22-22

2Q 24-12

3Q 18-16

4Q 11-25

OT 16-2

Total 91-77 Win

